

政務活動費収支報告書

令和 6 年 3 月 1 日

島田市議会議長 藤本 善男 様

議員氏名 横山 香理

令和 5 年度の政務活動費について、次のとおり報告します。

収入の部

単位：円

項 目	決 算 額	摘 要
政務活動費交付金	200, 000 円	
計	200, 000 円	

支出の部

単位：円

項 目	決 算 額	摘 要
調査研究費	62, 711 円	
研修費		
広報費		
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費		
その他の経費		
計	62, 711 円	

政務活動費残額 137, 289 円

※ 調査研究その他の活動の概要及び領収書を添付してください。

政務活動費支出決算額明細書

項 目	支 出 明 細	領収書貼付用紙 の 番 号
調査研究費		24,738 円
	東京都豊島区役所・埼玉県秩父市役所：森林環境贈与税の活用について (R5. 7. 26) 埼玉県北本市役所：シティプロモーションについて (R5. 7. 27)	
	・旅費 16,380 円	1
	・宿泊費 7,300 円	+2
	・視察先土産代 1,058 円	+3
		37,973 円
	愛知県安城市：「おおきな木」「フリースクールきのこ」 大阪府箕面市：「箕面こどもの森学園」 大阪府豊中市：「まるんと」 オルタナティブスクールについて (R6. 11. 20. 21)	
	・旅費 24,520 円	4
	・宿泊費 6,365 円	+5
	・視察費 2,000 円	+6
	・書籍代 3,000 円	+7
	・視察先土産代 2,088 円	+8
		62,711

	議 長	副議長	事務局長	次 長	主幹 係長	担 当
決 裁						

領収書貼付 用紙の番号	1
----------------	---

政務活動出張申請書

令和 5 年 6 月 5 日

島田市議会議長 藤本 善男 様

島田市議会議員 横 山 香 理

市政調査研究（調査研究・研修）のため、下記に出張をしたく届け出ます。

出張年月日	令和 5 年 7 月 26 日 から 令和 5 年 7 月 27 日まで
出 張 先	1. 東京都豊島区役所 豊島区南池袋 2-45-1 2. 埼玉県秩父市役所 秩父市熊木町 8-15 3. 埼玉県北本市役所 北本市本町 1-111
出張の目的	① 森林環境贈与税の活用について 「としまの森」設置に関し、豊島区側の活用実態と秩父市側の整備内容とその成果について調査する。 ② 北本市におけるシティプロモーションの取り組み実態と成果について調査する。
行程・利用交通 (交通手段の理由)	別紙の行程表（交通費計算書）による。
旅費	別紙 政務活動出張旅費支出伝票による



豊島区役所

森林環境贈与税の活用方法の「としまの森」の整備について

1. 姉妹都市といえども、都市連携に至った経緯はどうだったか。
2. 森林環境贈与税の基本的な活用方針はどのようなものか。
3. 活用額の分配内訳は。
4. 埼玉県森林 CO2 吸収量認証制度の活用の目的と成果について
5. 秩父市・箕輪町の現地の活用について、現地への豊島区民の実績と成果はどうか。
6. 今後この税の活用についての計画はどうか。

秩父市

豊島区の森林環境贈与税を活用した「としまの森」整備について

1. 森林環境贈与税の秩父市自身の活用計画は金額を含めどのようなものか。
2. その中で豊島区からの分の活用の位置づけはどうか。
3. 「としまの森」の実際の整備内容について。 現地視察も希望
4. 秩父市のこの税金の活用方針と豊島区からの受け入れ分の活用方針はどうか。
5. 豊島区民の受け入れ体制はどうなっている。
6. 「としまの森」の維持管理はどうなっているか。
7. 「としまの森」の今後の活用とさらなる整備追加の計画などについてはどうか。

北本市

北本市シティプロモーション、&green（アンドグリーン）について

1. 北本市のシティプロモーションはどのようなコンセプトのもと、どのようなことを目指しているか。
2. &green の具体的活動はどのようなものか。現地視察ができればありがたい。
3. 市民参加の実態と成果はどうなっているか。
4. 経済効果という観点からの評価はどうか。
5. 人口動態という観点からの評価はどうか。
6. &green の今度の展開、展望についてどのように計画しているか。

	議長	副議長	事務局長	次長	幹事	担当
決裁						

領収書添付
用紙の番号

政 務 活 動 出 張 旅 費 支 出 伝 票

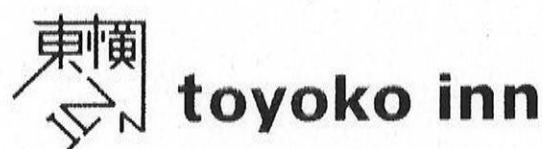
出張日	令和 5 年 7 月 26 日	～	令和 5 年 7 月 27 日
出張先	東京都豊島区(豊島区役所)、埼玉県秩父市(秩父市役所)、埼玉県北本市(北本市役所)		
旅費	交通費	宿泊費	日当
参加者負担金等			
下記計算の 基礎参照	16,380円		
計	16,380円		

計算の基礎

旅 程	島田	～	静岡	～	品川	～	池袋	～	西武秩父/秩父	～	島田																			
	熊谷	～	北本	～	東京	～	静岡	～		～																				
合計	609.8 km																													
鉄道運賃 ※601キロ以上は往復割引適用(同一経路のみ)、地下鉄等は2キロ以上から	↓片道キロ数																													
島田	～	池袋	(	216.4 km	)	片道	3,740 円																							
池袋	～	西武秩父	(	76.8 km	)	片道	800 円																							
秩父	～	熊谷	(	44.1 km	)	片道	880 円																							
熊谷	～	北本	(	18.0 km	)	片道	330 円																							
北本	～	島田	(	254.5 km	)	片道	4,510 円																							
						計	10,260 円																							
加算運賃 (J R 北海道、四国、九州)	km 円																													
	()																													
鉄 道 運 賃 計	10,260 円																													
特急料金等 ※乗継割引利用な場合は利用、座席指定の可否確認、片道キロ数確認																														
新幹線	静岡	～	東京	(180.2 km)	往復	6,120 円																								
在来線特急		～		(km)	往復	円																								
在来線急行		～		(km)	往復	円																								
座席指定料金		～		(km)	往復	円																								
車賃(バス・タクシー)		～		(km)	片道	円																								
航空賃、船賃		～			往復	円																								
交 通 費 合 計	16,380 円																													
宿泊料	@13,100×泊	円																												
日当	@2,600×日+@1,300×日	円																												
	↓日当の調整がある場合は、理由を記載すること																													
	()																													
その他	円																													
旅 費 合 計	16,380 円																													

領 収 書 等

項 目	調査研究費		
支出明細	宿泊代	領収書貼付 用紙の番号	27



領 収 書

YOKOYAMA KAORI 様

領収金額 ￥7,300

(消費税等を含みます)
現金にて領収いたしました。東横INN熊谷駅北口
TEL:048-599-1045 FAX:048-599-1046

取引番号:2230760079 2023/07/26 17:53

ご 利 用 明 細

摘要
宿泊料料金
¥7,300

お部屋番号: 1218

お名前 : YOKOYAMA KAORI様

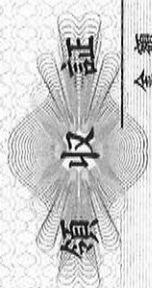
ご人数 : 1

宿泊期間 : 2023/07/26 - 2023/07/27

最安値宣言!!公式HP予約なら最大¥400 OFF.
クレジットカード決済ですいすい!!
予約はこちらtoyoko-inn.com

領 收 書 等

項 目	調査研究費		領収書貼付 用紙の番号	3 2
支出明細	土 産 代			



領 収 証

横山倉理議員様

No. _____

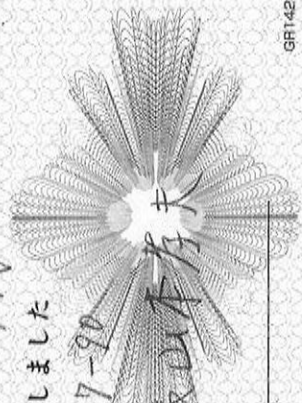
金額	¥	1	0	5	8	-	-	-	-
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---

但 豊島区、世田谷区、杉並区、目黒区、中野区、文京区、台東区、荒川区、板橋区、練馬区、国分寺市、武蔵野市、三鷹市、小平市、国領町、日野市、八王子市、町田市の各自治体行政視察、みどり代

令和5年 7 月 27 日 上記正に領収いたしました

島田市金谷栄町 347-90

島市市民会議員 会派代表 山本 孝夫



登録番号

GRI420

内 訳	
税抜金額	
消費税額(%)	
税抜金額	
消費税額(%)	

みあげ代 按分計算

島田市民会議
代表 山本孝夫

豊島区、秩父市、北本市、行政視察に持参した
みあげ代も以下のように按分する。

2023年07月25日（火）

島田市民会議 様 領 収 証
¥ 3, 1 7 5 -

（消費税等 235円を含みます）
上記、（お品代）として、領収しました。
アビタ島田店 TEL: 0570-009511
ユニー株式会社 本社所在地 愛知県稲沢市天池五反田町1番地
※財布等で保管戴く場合は、印刷面を内側に折って保管願います。
明細の*印は軽減税率、セ印はセゾンデベロップメント税制 対象商品

0151-1345-4656

* 領収証詳細 *
2023年07月25日(火)14:54 店No0151
店No****333岡村
4986160703875JAN
* : うなぎバイ12本入
3コX単980
小計 ¥2,940
(税8% 対象 ¥2,940)
税8% ¥235
(税合計 ¥3,175)
合計 3点
お買上点数
レシートNo4656

3自治体へ

$$3,175^{\text{円}} \div 3人 = 1058^{\text{円}}$$

代表から各議員に 1058^円 の領収書を配る。

	議 長	副議長	事務局長	次 長	係 長	担 当
決 裁	決 裁 済					

領収書貼付
用紙の番号

4

政務活動出張申請書

令和5年9月25日

島田市議会議員 藤本 善男 様

島田市議会議員 横山香理

市政調査研究（調査研究・研修）のため、下記に出張をしたく届け出ます。

出張年月日	令和5年11月20日(月)～令和5年11月21日(火)まで
出張先	(11/20) 『市民立小中一貫校 安城おおきな木』 愛知県安城市今池町4丁目25番地 『NPO法人安城まちなかの学校』 愛知県安城市横山町浜畔上33-1 MCスクエアビル1F (11/21) 『NPO法人コクレオの森 箕面こどもの森学園』 大阪府箕面市小野原西6-15-31 『オルタナティブスクール まるんと』 大阪府豊中市箕輪2丁目11-10
出張の目的	近年、発達障害や不登校になる子供が増えている。当市においても同様なことが発生している状況下、全国的には子供の居場所確保に向けた取り組みが行われている、その一つにオルタナティブスクールがあげられる、そこで今回先進的な取り組み状況を視察研修するため、視察先として大阪府及び愛知県を指定し各学校及び運営団体を訪問し、過去・現在・今後の取り組み状況、現状把握、課題、今後の方針等の研究調査を実施する。
行程・利用交通 (交通手段の理由)	別紙の行程表（交通費計算書）による。
旅費	別紙 政務活動出張旅費支出伝票による

政 務 活 動 出 張 旅 費 支 出 計 算 書

出張日	令和 5 年 11 月 20 日 ~ 令和 5 年 11 月 21 日			
出張先	愛知県安城市(市民立小中一貫校 安城おおきな木、NPO法人 安城まちの学校)、大阪府箕面市(NPO法人コクレオの森 箕面こどもの森学園)、大阪府豊中市(オルタナティブスクール まるんと)			
旅費	交通費	宿泊費	日当	参加者負担金等
下記計算の 基礎参照	24,520円			
計				24,520円

計算の基礎

計算の基礎

旅 程					合計	737.6 km				
六合	～	掛川	～	豊橋	～	新安城	～	南安城	～	
安城	～	三河安城	～	新大阪	～	吹田／吹田	～	北千里	～	
豊川	～	万博記念公園	～	蛍池	～	大阪梅田／大阪	～	新大阪	～	
掛川	～	六合								
鉄道運賃 ※601キロ以上は往復割引適用(同一経路のみ)、地下鉄等は2キロ以上から										
↓片道キロ数										
六合	～	豊橋	(	88.7 km	)	片道		1,520 円		
豊橋	～	新安城	(	38.3 km	)	片道		680 円		
新安城	～	南安城	(	4 km	)	片道		230 円		
安城	～	吹田	(	222.7 km	)	片道		4,240 円		
吹田	～	北千里	(	7.6 km	)	片道		200 円		
豊川	～	蛍池	(	12.9 km	)	片道		440 円		
蛍池	～	大阪梅田	(	11.9 km	)	片道		240 円		
大阪	～	六合	(	351.5 km	)	片道		6,050 円		
						計		13,600 円		
加算運賃 (J R 北海道、四国、九州)				km					円	
()										
鉄 道 運 賃 計								13,600 円		
特急料金等 ※乗継割引利用な場合は利用、座席指定の可否確認、片道キロ数確認										
新幹線	掛川	～	豊橋	(	64.3 km	)	片道	2,290 円		
	三河安城	～	新大阪	(	216.3 km	)	片道	3,930 円		
	新大阪	～	掛川	(	323.3 km	)	片道	4,700 円		
在来線特急		～		(	km	)	往復		円	
在来線急行		～		(	km	)	往復		円	
座席指定料金		～		(	km	)	往復		円	
↓片道キロ数										
車賃(バス・タクシー)		～		(	km	)	往復		円	
航空賃、船賃		～					往復		円	
交 通 費 合 計								24,520 円		
宿泊料	@13,100×	泊							円	
日当	@2,600×	日	+@1,300×	日						円
↓日当の調整がある場合は、理由を記載すること										
()										
その他									円	
旅 費 合 計								24,520 円		

領 収 書

No. 00016202309160003
表示日 2023/11/21

宛名 YOKOYAMA KAORI 様
金額 ￥6,365-
但し ご宿泊代として
決済日 2023/09/16
支払方法 クレジットカード

上記の金額を正に領収いたしました。

10%対象 ￥6,365 (内 消費税 ￥578)

※本紙は電子的に保持している領収データを画面表示したものです。
※発行後に予約変更・キャンセルされた場合、本領収書は無効になります。

東横INN新大阪中央 本館
〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島 5-2-9

発行元：株式会社東横イン
登録番号：T8010801008365

領 収 書 等

項 目	調査研究費		
支出明細	視察代	領収書貼付 用紙の番号	#6

領 収 証

金額

¥ 2 0 0 0 -

様 No. _____

横山

内 記 金

現 金

小 切 手

手 形

但 視察費

2023 年 11 月 21 日 上記正に領収いたしました

NPO法人コクレオの森

〒562-0032 箕面市小野原西6丁目15-31

TEL&FAX 072-735-7676

登録番号

消費税額等(%)

消費税額等(%)

GR1822

領 収 書 等

項 目	調査研究費		
支出明細	書籍代	領収書貼付 用紙の番号	57

領 収 証

横山 様

No. _____

金額

¥	3	0	0	0
---	---	---	---	---

但 書

2023 年 11 月 2 日 上記正に領収いたしました

NPO法人コクレオの森

〒562-0032 箕面市小野原西6丁目15-31

TEL&FAX 072-735-7676

登録番号 _____

消費税額等(%) _____

消費税額等(%) _____

内 記

現金 _____

小 切 手 _____

手 形 _____

領 収 書 等

項 目	調査研究費		
支出明細	土産代	領収書貼付 用紙の番号	68

菓子処 叶家

0001-0001
会計日：2023/11/18領 収 書
島田市議会 様

領収金額

¥6,264-

(8%軽減対象 ¥6,264)
(内消費税等 ¥464)

上記正に領収いたしました

但 お品代 として
2,088円 x 3人分

菓子処 叶家

静岡県島田市

金谷東1丁目1045-3

TEL：0547-45-2839

登録番号：T6080001013491

担当者：茂川

領収書No:000120231118143619899

受 領 証

横山香理様

金額 ¥2,088

6,264÷3名

但 土産代 として

2023 年 11 月 20 日 受領いたしました。

島田市金谷根岸町142-1

大村泰史

報告書

令和6年3月29日

島田市議会議長 藤本 善男 様

島田市議会議員 横山香理

1・島田市の活性化について

このテーマは毎回掲げているが、私は市民協働のまちづくりの観点からこのテーマに取り組んでいる。

私の住む初倉において令和4年2月から6月にかけて、4回シリーズで地域活性化ワークショップを行った。その後ワークショップから初倉のまちづくりのために何か活動したい！という気持ちが集結し、ホタルの里づくりを始めている。幼虫の飼育や川の整備をしながら、令和5年5月には数匹飛び立ったが、さらにホタルが舞う里を願って夕涼み会を行った。

また同年10月には、4年ぶりに開催された初倉まつりへ参加し、バルーンアートとラダーゲッターというゲームのブースを設けた。

この会の発足した目的は、自分たちが楽しんでまちづくりをしながら、またイベントなどの行事に参加しながら「自分も地域のために何かしたい！」というまちづくりを自分ごととして捉えられるプレーヤーを発掘していきたいということを最大の目的としている。またこの会の特徴的なところは、市民と市の職員が共に汗を流して協働のまちづくりに取り組んでいるところであると思う。

ただ活動していくうちに、さまざまな課題にぶつかる。その一つにこの両者に見えない隔たりがあるということである。まずはお互いをよく知ることが大切なのだと実感した。そのうえで、お互いに理解して意見を尊重しながら活動していく大切さも学んだ。ただ活動していくうえで一番大切なことは、やはりまずは自分たちが楽しむこと。そのいい空気に賛同して「まちづくりって楽しそう！！」「参加してやってみたい！！」こう思う人たちがひとりでも多く出て来て、人材発掘に繋がることを願っている。また会としても目的がここにあることを理解しながら活動していることを嬉しく感じる。今後はメンバーがさらに参加しやすい行事をもう少し増やしていきたい、また当市の中で現在ワークショップに取り組んでいる団体などと連携した活動が出来ればよいと考えている。

2・防災について

令和5年2月に私の地域において原子力広域避難訓練を実施した。当日は初倉のくららに集合し、レインコートを着用後、問診を受けて安定ヨウ素剤に見立てたアメを受け取った後、バスに乗り込み放射能除染訓練が行われている浜松サービスエリアまで移動した。現地では除染訓練が行われ、除染証明書を受け取るまでを実施した。一連の流れや実際に起きたときの行動などについては、ホームページにしっかり記載されているが、より分かりやすく私なりに周知の場を設けて周知に努めた方が良く、と参加して感じたため、一般質問で取り上げそれを基にその後60名ほどの地域の方に向けて周知を図った。またそのときの訓練には自治会長なども参加していたため、同年の夏の訓練にはDVDを視聴しての原子力防災の周知を行っている。地道な周知が結局は実を結ぶものだと考えている。

また同年12月には2日間に渡り「避難生活リーダー・サポーター研修」が初倉小学校体育館で実施された。これは内閣府が主催の研修で、長引く避難所生活での災害関連死を防ぐため、避難所の環境改善や被災された方の心情理解のためのスキルを学ぶものである。約50名が参加し、ワークショップやロールプレイングを実施したが、大変実践に即した内容であると感じた。ただ受講には1コマ20分程度の動画を8コマ事前に視聴しなければならずハードルも少し高い。もう少しダウンした形式や、当局としてオリジナリティを持たせた形式で訓練に取り入れられないか一般質問で投げかけた。様々な災害が頻発する中で、市民の防災意識をさらに高める必要性を感じている。

3・地域福祉について

11月30日、この日は語呂合わせで「いい看取りの日」とされている。この語呂合わせにちなんで、令和5年11月30日、私が両親の在宅介護・在宅看取りを経験したときのお話を、島田市社会福祉協議会主催の「しまつなカフェ」でお話させていただく機会があった。

現在地域包括ケアシステムを構築中で、ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイ・小規模多機能型居宅介護施設…などと地域資源は豊富にある。ただ人手不足や物価高騰やさまざまな理由の中で経営難に陥る事業所もあり、今後の在宅医療、介護の分野において影響が出てくるのではないかと懸念している。実際現場からも懸念される声が上がっていて一般質問でも取り上げた。

在宅での介護、看取りを経験する中で「人はひとりでは生きられない」「困ったときはお互いさま」をお世話になった方々から教えていただいた。在宅での介護、看取りは後に残された人の心の糧となり、その後の人生を前向きに生きていく新たなきっかけともなる。私に出来る範囲でその周知に努めている。

その一方で、当局は介護予防に力を入れている。今回の「しまつなカフェ」をきっかけに、現在取り組み始めている「まちなか保健室」で、私に出来ることで携わってい

る。これは地域の居場所などに出向いて看護師、薬剤師、理学療法士などが健康相談をしたり、血圧測定をしたりする。そのため専門性が高い。私にとって何が出来るか考えて、まずはそこに通う人のお話をじっくり聞くこと。そこから困りごとや心配ごとを引き出せられたらいいなと思っている。またやはり男性参加が少ないため、どう促していくか、これも関わる人たちと共に考えたい課題であると思っている。

報告書

令和5年 8月 1日

島田市議会議員 藤本 善 男 様

島田市議会議員 横山 香 理

市政調査研究（調査研究・研修）のため、出張したので報告します。

出張年月日	令和5年 7月 26日から 令和5年 7月 27日まで
1 調査研究 出張先及び 調査項目	令和5年 7月 26日 (水) 午前 10:00 ~ 11:30 東京都豊島区… 森林環境譲与税を活用した「としまの森」 及びカーボンオフセット事業について
2 研修 研修名、出張先及 び主催者	令和5年 7月 26日 (水) 午後 2:00 ~ 4:00 埼玉県秩父市… としまの森づくり事業について 令和5年 7月 27日 (木) 午前 9:30 ~ 11:30 埼玉県北本市… プロモーションの取り組み（アガグリーン）
報告事項	別紙の通り

報告書

① 令和5年7月26日午前10時～午前11時30分

東京都豊島区…森林環境贈与税を活用した「としまの森」及びカーボンオフセット事業について

- ・豊島区と秩父市が姉妹都市であり、長年にわたり移住や文化交流などをしてきたこれまでの関係性の中で、森林整備協定を秩父市と結んでいる。
(他長野県箕輪町とも結んでいる)

令和元年度より5年間の協定を結び、今後も継続していく方針

約3000万円の森林環境贈与税のうち、埼玉県秩父市「としまの森」長野県箕輪町「としまの森みのわ」に約400万円ずつ配分している

- ・事業の主な取り組み

秩父市私有林において植樹・下草刈り・萌芽更新などの森林整備

整備区域1.89haを「としまの森」と名付け、区民の環境教育として活用

「としまの森」に足を運ぶ環境交流ツアー（年2回）を実施

年2回8月・10月に日帰りツアーを旅行会社へ委託し実施。豊島区の親子が対象。1回につき定員40名を募集し参加費2500円（募集超過で抽選になる）

散策・植樹・丸太切りコースターづくり・秩父市の歴史や文化を学ぶ学習などを行う

埼玉県のCO2吸収量認証制度を活用して、カーボンオフセットを推進

- ・その他の取り組み（主なもの）

小・中学校の改築に伴う木質化（義務教育施設整備基金積み立て）

学校や地域での植樹活動・地域への年2回の苗木配布

② 令和5年7月26日午後2時～午後4時

埼玉県秩父市…としまの森づくり事業について

- ・事業の主な取り組み

豊島区からの配分（約400万円）を活用し、としまの森の看板設置・刈払い・大径木処理・植栽・萌芽更新・ナラ枯れ対策・遊歩道整備・年2回の巡回整備・落石防護及び落下防止ネット・ベンチ設置・谷を渡るための橋設置・

・その他の取り組み（主なもの）

高校生を対象とした林業体験…秩父農工科学高校の森林科学科の生徒が対象
チェーンソー講習や伐採体験、現場見学などの実施

木の引き出し製造・配布（新生児のいる家庭）

森林環境教育４年生…森を知ろう・５年生…林業を知ろう

*森づくり課専門の部署があり、広域連携をした取り組みが特長

まとめ

今回東京都豊島区と埼玉県秩父市の森林環境贈与税を活用し、連携した取り組みについて調査研究をした。５年間の協定で、今後も継続していく方針であることは伺ったが、どちらも課題があることが分かった。

豊島区に関しては、公園面積が23.7haで東京23区の中で最も少ない。そのため10年で10万本の植樹を達成しつつも、場所の確保が難しく今後の課題であるとしている。また連携した取り組みの中で、カーボンオフセットの見える化（パンフ配布・動画作成など）に努めているが、区民に興味を持ってもらう、また興味を引き出せるような情報を届けることは非常に難しく感じていることも読み取れた。

また秩父市に関しては、86%が森林であるため林業に関わる人の人材不足、としまの森の管理・整備・活かした企画などもう少し幅を広げてやりたいと思いつつ、現状は難しいところであることも感じられた。ただ、ツアーに参加された親子の中には、自然豊かな秩父市に関心を持って移住を考えている方がいることも分かった。

としまの森を実際歩いて視察したが、一周するのにだいたい一時間程度かかるということである。駅から比較的アクセスが良く、車で30分ほどの場所に位置していることも魅力のひとつであると思うが、としまの森に踏み込む手前に音楽寺という名のある寺がある。私たちが視察した時も観光客がいた。こうした場所に看板を設置したり、またはせつかくきれいに整備された場所であるため、カブトムシなどの昆虫ツアーなどが出来るのではないかとも思った。

この連携した取り組みが当市に当てはまるかどうかは別として、森林環境贈与税を活用し、市民がさまざまな角度から環境を考える場があるといいのではないかと感じた。

③ 令和5年7月27日午前9時30分～午前11時30分
埼玉県北本市…北本市シティプロモーション「&green」の取り組みについて

・事業の主な取り組み

人口約6万5千人：面積19.82km²でベッドタウンながら緑被率が47.1%と高い。この魅力を見出すため「&green」と名付けたシティプロモーションを始める。さらに2014年の日本創生会議で消滅可能性都市のひとつに挙げられたことも大きな理由

目的：市民にまちへの愛着を持ってもらい、住み続けてもらうこと

まちの活動に参加してもらうことで、まちの活力を維持すること

内容：&green market（屋外の仮設マーケット）

マーケットの学校…講義5回（マーケットの在り方や何を実現したいか話し合いワークショップ）

実習1回（北本市役所芝生広場でマーケットの開催）

ターゲット：市内在住の25歳～34歳までの女性

コンセプト：豊かな緑に囲まれたゆったりとした街のなかで、あなたらしい暮らしを

*北本市における屋外マーケットは、&greenマーケット・クラフトマーケット・朝市・ランチマルシェ・ナイトマルシェ・くるりんマーケットなど年間実施回数が103回

*市民のまちへの愛着はmGAP（エムギャップ・修正地域参画総量指標）を用いて図っている

*シティプロモーション・広報・ふるさと納税とこの3つをひとつの部署にまとめ、6名で業務にあたり、そのうち4名が女性

まとめ

今回北本市のシティプロモーション「&green」の視察を通して率直に感じたことは、まず「&green」のロゴが若い方を引き付けるおしゃれなロゴであること。若い人材とSNSをふんだんに活用し、それから何もかも大きく広げすぎず、力を集中させて発信力に富んでいることであつた。シティプロ

モーションのターゲットも非常に幅を狭く絞り込み、市の公式ラインとは別で、「&greenファンクラブ」と名付けてラインでも発信している。マーケットということもあって、民間に拡大しやすいこともあってか、今では自走している。こうなるまでには興味を持つ方をじわじわ増やしていく底辺の努力も欠かせないことも感じられた。またシティプロモーションにあまりお金をかけず、今年度は800万円でやっていく工夫もみられる。

別の視点では、ふるさと納税に関してグリコの工場があるため、製品をのせると同時に工場見学も同時に開催していることを伺った。興味を持ってもらい実際に来てもらう、そのためのアイデアがあちこちあると感じた。

その中でもやはり課題はあって、経済活性化のためのシティプロモーションに走らないように、目的に沿った&greenにしていくこと。また北本ラブにこだわること。それがまた時として難しくなることがあること。市民が当事者意識を持って、まちの活性化や課題解決に向けた取り組みに参画するなど、コアな部分に関してはまだまだ浸透せず、シティプロモーション自体知らない市民も多くいることも伺った。また進めていく中で、市民と職員との距離感を保つ難しさも感じられた。

これらはまさに私が今活動しているものにもかなり共通する部分があるため、非常に参考になる調査研究であった。また、やることを広げ過ぎない・また公式ラインとは別のラインで活動を報告する・mGAPの取り組みなどは、当市においても非常に参考になると感じた。

報告書

令和5年11月22日

島田市議会議長 藤本 善男 様

島田市議会議員 横山 香理

市政調査研究（調査研究・研修）のため、出張したので報告します。

出張年月日	令和5年11月20日から令和5年11月21日まで
1 調査研究 出張先及び 調査項目 2 研修 研修名、出張先及 び主催者	令和5年11月20日午前10:00～ 愛知県安城市「おおきい木」 令和5年11月20日午後1:30～ 愛知県安城市「フリースクールまのこ」 令和5年11月21日午前9:30～ 大阪府箕面市「NPO法人 フレオの森 箕面こども森学園」 令和5年11月21日午後1:00～
報告事項	大阪府豊中市「まるんと」 “オルタナティブ スクール にっく” 別紙の通り

報告書

11月20日（月）愛知県安城市「おおきな木」

代表者…教員免許なし

自分の子育てを通して瀬戸市にある「瀬戸ツクルスクール」が我が子に合っていると感じた。各地にこうしたスクールがほしいと思い、2020年4月に立ち上げる。

・瀬戸ツクルスクールとは…瀬戸プラクティカルカレッジ。スキル・マインドを3年間学ぶ。学歴は中卒。

最初はオンラインで開校し、それから公民館を週1回使用。その後子どもたちから自分の居場所がほしいと声上がり、実家が空き家だったことからその実家を活用してスタートさせる。クラウドファンディングを活用し空き家を改修する。

概要…月曜日～水曜日まではその空き家を拠点とする。木曜日は近くの総合運動公園を活動場所としている。金曜日は休み。

対象は小1～中3まで。

現在は小1～中1までの合計16人が在籍、その日によって来る人数が異なる。来たいと思える時に来るというスタンス。

周辺市町から通って来る子どもが多い。安城市からは現在1名。

授業料は無償（実際授業をするわけではない）光熱費などの維持管理費は徴収する。

朝の会が10：15～で、施設は15：00終了。

そのうち45分間は学習の時間とし、最初の5分間は読書をする。

昼食は子ども同士で作る。その日のメニューはその日に来た子どもたちが決定し、その買い物まで子どもたちで行う。（予算一人300円）来たいと思える時に来るというスタンスを取っているが、なんでもアリということにはしない。

ここがいい！という子どもを対象にしているため、地域の学校へ通学しながら、おおきな木へ通うことは出来ない。

通学定期の発行はお願いしている。

子どもの感性を大切に、将来は個人事業主になれる子どもを目指す。

11月20日（月）愛知県安城市「フリースクールきのこ」

代表者…教員免許なし

経営は一般社団法人で、発達支援の勉強をした方がスタッフ。現在は代表者とスタッフ1名で運営している。

もともと塾の講師をしている中で、不登校児童が多いことに気づき、2022年5月～開始した。

家賃などで月20万円ほどかかるため、1日利用にあたり3000円の利用料金の徴収をしている。

認可にするか悩むこともある。ただ認可にすると縛りが出てくるため、現在通っている子どもたちが通えなくなるのではないかと懸念している。また、新しい環境に慣れるのが苦手とする子どもが多いことも特徴。

概 要…月・水・金曜日に開校。

現在登録児童は20名ほど。その中で6人～8人が通っている。

安城市と近隣市町から通う子どもがほとんど。送迎が多い。

朝10:00～16:00時まで開校。昼食はお弁当持ち。

対象は小1～中3まで。

本人がやりたいことをする。基本ゲーム機や携帯を持ち込んでゲームをしてもよし。（ただ試みとして、デジタルデトックスの時間を1時間設けることも検討中）

他者を傷つけることだけはしない。12:00で昼食を食べるということだけ決めている。

地域の学校と併用OKのフリースクール。

11月20日（火）大阪府箕面市「箕面こどもの森学園」

概要…創立20年を迎える。

不登校児童や、発達障害を抱える児童だけが対象という、限定的な概念ではない。私立学校に通学するというスタンスを取っている。教育とはこうあったらいいなというもとに存在している学校である。

生徒定員68名（小学部48名・中学部20名）

現在は小学部50名・中学部20名で待機児童が120名ほどいる。

1学年8人の複式学級で社会や理科などの教科は取り入れていない。

環境・平和・人権・市民性の中から学習テーマが設定される。また、子どもがやりたいと思うことについて、自分で計画を立て、準備し、実行する。

手芸・工作・木工・クッキングなどにチャレンジするプロジェクト学習に取り組んでいる。

中学部は海外にあるオルタナティブスクールに年1回訪問し、交流する。

10日間ほど滞在。

4割は教育移住で、もともと北海道や奄美大島に住んでいたという子どももいる。

良い・悪いの優劣は持たず、一人ひとりにカスタマイズする。

自分で取り組んだことを自己評価し、スタッフと保護者で確認する。

11月21日（火）大阪府豊中市「まるんと」

概要…理念：子どもは天からの預かりもの

対象：個性ある子どもたち（一般的に発達障害のグレーゾーンといわれる子どもたちや、学校になじめない子どもたちなどを含め、個性ある子どもたちを受け入れている。）

小1～高3まで。

目標：自分経営を目指す。体験と実践を大切にしている。

朝9：00～16：00開校。水曜日休日。

入会金30,800円。月額利用料60,500円

人間力を育む力を大切にし、将来は起業できる力を養っていける人材に育てていきたい。同時に保護者との対話も積極的に行っている。

行政や地域の学校との連携も比較的出来ている。

まとめ

今回はオルタナティブスクール（公立でも私立でもないもう一つの学校）を4か所視察をさせていただいた。オルタナティブスクールは、個人が尊重されて子どもの自主性を重視した活動や教育が行われているが、そのような中でもスクールごとに特徴が見られ、かつ強い理念のもと運営されていると感じた。実際朝スクールに登校する児童や、スクールでの活動の様子を見学させていただいたが、みんな安心して通学している様子で、スクールを楽しんでいる様子も伺えた。

発達に課題がある子どもや、不登校児童を受け入れているスクールが圧倒的に多く、基本自分で意思決定し、行動できる力・人間力を養う所に力点を置き、将来的には自律・自立できる子どもに育てていきたいというところに重きを置いていると、どのスクールを見ても感じたところである。

一方で、まだまだ行政や周囲の理解を得られていないと感じている代表者の切実な声も聞かせていただいた。

どのスクールも、行政や地域にある学校と連携し、情報の共有を図っていきたいと感じている。

不登校児童や発達に課題を抱えている子どもたちが増えている現在、こうしたオルタナティブスクールが最後の砦になっているようにも感じた。

ありのままの自分を受け入れてくれるスクールに、安心して通う子どもたちの様子を見て、ここに通う子どもたちにとっては、なくてはならない場所であることを強く感じました。また、さらに必要とされていく教育なのではないかと思っている。

楽しくのびのび通学する子どもたちを見て、さまざまなことを考えさせられた。